

おかやま 河川だより

—環境—
自然を育む



水生生物による水質の簡易調査
旭川（新大原橋周辺）



みなさんこんにちは。あれほど暑かった夏もいつの間にか去り、朝夕めっきり涼しくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。実りの秋を迎えて、いよいよ行楽シーズンを迎えました。お出かけの際には、爽やかな秋晴れの下、美しく変わり始めた自然に目を向けてみませんか。

さて今回はそんな美しい自然を守るための行政や地域の方々の様々な取り組みをご紹介します。

この広報紙は、県内市町村の広報コーナー、岡山河川事務所並びに各出張所に置いてあります。また、岡山県内の道の駅及び高速道のサービスエリアにも置いてありますので、ご自由にお持ち帰り下さい。



吉井川



旭川



高梁川

岡山河川事務所
国土交通省 中国地方整備局



吉井川の瀬戸町周辺には、昭和52年に国指定天然記念物となり環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種（ⅠA類）にも指定されている希少魚種「アユモドキ」が生息しています。

アユモドキの産卵は、灌漑や氾濫により一時的に生じたほとんど流れのない水域において、水につかった陸生植物の間で行われます。稚魚は1年で70～80mmに成長し2年で成熟するといわれ、40～50mmに成長した時点で、河川や用水路へ出て行くものと推定されています。

アユモドキが激減した要因は、護岸工事や用水路の改修等により、産卵に適した一時的水域の消失、生息場の消失、河川と水路等の隔絶による移動阻害などであると考えられています。

今後、アユモドキを保全していくには、吉井川から支川、上流の水田までを一体とした水域環境の連続性を創出する必要があるため、エコロジカルネットワークを形成し、瀬戸町をはじめとした行政機関、地元住民、地元企業である麒麟ビール等とも連携したソフト対策やハード対策が期待されています。



アユモドキ（絶滅危惧ⅠA類（環境省））

国土交通省岡山河川事務所の取り組み

吉井川周辺では、本川、支川、堤内地の水路、水田まで水域の連続性を確保するため、関係機関からなる協議会を設置しハード及びソフトの両面からエコロジカルネットワークを構築することにより、アユモドキの生息・生育環境を保全、創出するとともに地域の自然再生に寄与する事業を実施しています。岡山河川事務所の具体的な取り組みとして、吉井川を中心に平成18年度よりアユモドキの生息調査し基礎的な知見を整理します。これらの結果を基に堤外水路の整備により遡上の休憩場や、代替の産卵場等の整備も検討します。

瀬戸町の取り組み

アユモドキの生息状況調査

瀬戸町では、平成15年度よりアユモドキの生息状況調査が実施されており、全国で初めてとなる自然産卵場所の特定等多くの調査結果が得られています。

アユモドキの人工繁殖

種の保存（地域個体群の系統保存）、人工繁殖技術の確立、孵化・仔魚期の生態観察、公開展示等による保全啓発等を目的に人工繁殖を実施しています。

関係機関の取り組み

環境省は、密猟者による乱獲防止として生息環境監視事業を検討しています。農林水産省は、堤内地の農業用水路において、産卵場所や隠れ家等の保全対策を検討しています。

アユモドキ保全活用検討委員会

アユモドキ保全活用検討委員会を設置し、保全活用及び、開発等に伴う様々な問題点について審議・指導します。

委員長	青 雅一	（岡山淡水魚研究会会長）
副委員長	坂本 竜哉	（岡山大学理学部長）
委員	佐藤 國康	（川崎医科大学特任教授）
	上島 孝久	（中国学園大学教授）
	馬場 俊介	（岡山大学教授）
	小林 一郎	（河川環境保全モニター）
	阿部 司	（岡山淡水魚研究会会員）
	小坂 光一	（瀬戸町教育委員会教育長）

オブザーバー

国土交通省岡山河川事務所・岡山県文化財課・岡山県自然環境課・環境省中国四国地方環境事務所・農林水産省中国四国農政局



アユモドキとたいせつな魚たち展（麒麟ビールにて）

委員の方から一言

アユモドキへの思い

岡山淡水魚研究会 小林一郎さん

アユモドキという魚は、見れば見るほど不思議な感じがします。数百万年前、日本が大陸の一部であった頃に水系を伝って分布を広げ、日本列島が分離した後も、悠久の歴史のなかで、現在まで生息続けています。中国や東南アジアには、アユモドキの仲間の淡水魚が多種生息しています。

こうして、アユモドキを見るたびに、大陸とのつながりに思いを馳せ、同時に現在までこの岡山の地によくぞ生き延びてくれていたものだと感慨も一入です。

アユモドキは、琵琶湖淀川水系と岡山の三大河川に生息していますが、なかでも吉井川水系は最大の生息域です。今年は春先の低温により成熟が遅れ、灌漑のために水門が開まるまでに上流へ遡上し産卵できた個体は例年より少なかったようです。このため、今年は水門の下に何百匹ものアユモドキが取り残されました。最近では、地球温暖化の影響と推測される気温や雨量など、気候の大きな変動が、アユモドキの産卵にとってどのような影響を与えるのか心配です。少しでもアユモドキが産卵しやすいように、水門の操作や用水路の水管理など、いろいろとおねがいし関係者の方々にも配慮していただいています。



今年の変動が、アユモドキの産卵にとってどのような影響を与えるのか心配です。少しでもアユモドキが産卵しやすいように、水門の操作や用水路の水管理など、いろいろとおねがいし関係者の方々にも配慮していただいています。

○シードバンクからオニバスが発芽しました!

百間川では、近年失われつつある植物の再生を図るべく、「岡山の自然を守る会」が発足30周年の記念事業として、岡山河川事務所と協働でシードバンク調査を行っています。

シードバンクとは、土壌中に休眠している種子のある場所のことで、近年、自然再生の一環として注目されており、これを利用して、減少している貴重種の再生が可能と考えられています。

植物の同定については、「高島・旭電エコミュージアム」に協力をお願いしており、これまでに、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）にリストアップされているオニバスが発芽したほか、ヒシ、カワヂシャの発芽も確認できました。

百間川河口水門



オニバス群生の様子 (昭和59年撮影)



岡山河川事務所での発芽試験



オニバスの花



百間川「原尾島橋」上流付近での土壌採取状況 (H18年3月)



オニバス (環境省: 絶滅危惧Ⅱ類、岡山県: 危急種)

池沼(ちしょう)に生える、1年生の大型の浮葉植物(ふようしょくぶつ)です。葉は円く、大きいものでは3mにもなります。葉の表面には皺(しわ)があり、葉や茎には鋭い刺(とげ)があります。花は紫色で開花時期は8月~9月です。花の寿命は短く3日程度しかありません。

以前は、百間川の河口にも群生していましたが、確認される場所が少なくなりました。

高島・旭電エコミュージアムの方から一言

毎週木曜日の10:00~百間川の植物の標本作りを行っています。



一緒に活動しませんか

「高島・旭電エコミュージアム」では、龍ノ口山周辺と百間川でみられる植物について、標本作りを行っています。この活動は、平成12年頃から始めて、6年目を迎えています。作成した標本は、デジタル写真にして、高島公民館でご覧になることが出来ます。ぜひ1度、足を運んでみてください。

また、標本作りは、毎週木曜日に行っています。植物に興味のある方は、ぜひ参加してみませんか。

お問い合わせは、高島公民館までお願いします。

高島公民館 TEL (086)275-1341

HP <http://kouminkan.city.okayama.okayama.jp/takashima/>



高梁川

スイゲンゼニタナゴの保全に向けた取り組み

高梁川支川小田川には、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種(ⅠA類)に指定されている希少魚類の「スイゲンゼニタナゴ」が生息しています。

スイゲンゼニタナゴは、岡山平野を中心とする山陽地方平野部のごく狭い範囲に生息しており、国土交通省・環境省・農林水産省では、希少な動植物の保護や保全の一環として、スイゲンゼニタナゴが自然状態で安定的に存続できる環境を創出するため、保護増殖事業計画を策定(平成16年7月)し、生息環境の維持・保全や個体の保護及び増殖に努めることとしています。

生息実態調査や保全、個体の増殖にあたっては、有識者や国・県・関係市町等で構成する「岡山県スイゲンゼニタナゴ保全連絡協議会」の中で情報交換を行いながら、関係機関が連携して取り組んでいます。



スイゲンゼニタナゴ (写真提供: 矢掛高等学校 室 貴由輝氏)



母貝となるイシガイ

国土交通省では、平成16年から平成17年にかけて、小田川とその支川でスイゲンゼニタナゴの生息実態と生息環境調査を実施しました。

調査にあたり有識者のアドバイスや、地元でスイゲンゼニタナゴの保全に取り組んでおられる「NPO法人倉敷水辺の環境を考える会」の青江氏にご協力いただき、適切な調査と正確な種の同定に努めました。

調査した範囲内では、川底が砂や小さな石の混じる所で、流れの緩い平瀬や淵の箇所特にスイゲンゼニタナゴが多く確認されました。また、スイゲンゼニタナゴが卵を産み付けるイシガイなど大型の二枚貝も、同様の箇所で多数確認され、小田川やその支川はスイゲンゼニタナゴにとって住みやすい環境が残っている事が分かりました。



現地調査状況

倉敷水辺の環境を考える会の方から一言

小学校での繁殖に向けた学習会の様子



一人でも多くの子どもたちにこの貴重な魚を知ってもらえればと思います。高梁川水系から分かれる農業用水路には広く貴重な魚が分布していて、これらの魚たちを守っていくことが自然保護、環境保全につながっていくと考えています。古くから農家の方が水路を守ってくれたおかげで魚たちは生き残ってくることができました。これからは、私たち一人でも多くの人が河川環境を考え、河川や水路を守っていくことが地域の自然保護、発展へとつながり、住みよい地域づくりができるのではないのでしょうか。

スイゲンゼニタナゴ保護増殖のため幅広い活動を行っています

NPO法人 倉敷水辺の環境を考える会 代表 青江 洋さん
私たち倉敷水辺の環境を考える会では、スイゲンゼニタナゴの保護増殖活動に取り組んでいます。高校生、専門学生、小学生たちと生息地の清掃活動をしたり、環境調査等を行い、魚たちにとってより住みよい河川環境について考え、意見交換などもしています。この活動の一環として、本年度は小学校二校で、水槽やピオトープを利用した繁殖に挑戦して

平成17年度河川水辺の国勢調査の結果

国土交通省では、河川環境の整備と保全を推進するために、定期的に河川内の動植物に関する基礎情報の収集を行うこととして、平成3年から、調査地点を決めて5年に1回の割合で、魚類や昆虫、植物、両生類・爬虫類・哺乳類などの生息状況を調査しています。

平成17年度は、吉井川では両生類・爬虫類・哺乳類、旭川では魚介類、また、高梁川では陸上昆虫類を調査しました。

調査の結果吉井川では、「タゴガエル」、「トノサマガエル」、「スッポン」など、環境省のレッドデータブックなどに記載されている希少な生物が7種確認されました。

旭川では、「アユモドキ」、「カネヒラ」、「オヤニラミ」など9種の希少な魚類が確認されました。旭川での淡水魚の出現種数は、全国109ある1級水系のうち4位にランキングされ、全国的にも魚種の豊富な自然豊かな川といえます。

高梁川では、「スイムシハナカメムシ」、「ツマグロキチョウ」、「ヨコミソドロムシ」など11種の希少な昆虫類が確認されました。



タゴガエル(希少種<岡山県>)



スイムシハナカメムシ
(絶滅危惧1類[環境省])

ワンポイントレッスン

岡山の川は淡水魚の宝庫です

岡山三川が流れる岡山平野は、当地方と淀川流域にしか生息していない天然記念物の「アユモドキ」、山陽東部にしか生息していない「スイゲンゼニタナゴ」をはじめ、淡水魚の種類が多いことで知られています。

河川水辺の国勢調査データ(H12～H16)を用いて純淡水魚の出現魚種数を全国109水系を対象に比較したところ、4位旭川、5位吉井川、7位高梁川と、全国的に見ても岡山三川は魚種数が多いことが伺えます。また、他の河川と比較してコイ科の魚種が多く、特に二枚貝に産卵するタナゴ類が多いことが特徴です。



淡水魚出現数の多い河川

順位	水系名	魚種数
1	淀川	56
2	木曾川	55
3	利根川	50
4	旭川	47
5	吉井川	44
5	筑後川	44
7	高梁川	41

(対象109河川/河川水辺の国勢調査H12～H16)



おかやま河川だより第3号(自主防災～ご近所の底力～)をご覧頂いた方から沢山のご意見、質問をいただきました誠にありがとうございます。今回は、一部であります但質問にお答えいたします。

自主防災～ご近所の底力～ についてのご質問

Q 自主防災組織を結成しましたが、地域の人々の防災に対する意識が低く思うよう活動が出来ません。意識を高める為にはどのようにしたらよいでしょうか。

A 防災意識を高めるためには、地道な活動が必要です。防災に関する講演や講習、防災訓練、防災マップの作成などは防災意識を高める為の一つの手段だと言えます。特に防災マップの作成は地域の中を歩いて危険な箇所や災害時に役立つ物を確認したり、避難経路を考えたりと、作成の過程で災害発生時の地域の状況や、防災上の問題点を認識することにより、防災意識の向上が期待出来ます。ただし、活動に参加してもらうためには、まず興味を持って貰うことが必要ですので、普段から防災に関する事を話題にしてみてもいいでしょうか。

環境に関する活動報告

①「旭川の健康診断」を実施しました



旭川流域の河川の水質実態を把握し、旭川流域全体が連携して水質保全に取り組むために行っている「旭川流域一斉水質調査」が、6月4日に行われました。

この調査は、旭川流域ネットワーク（AR-NET）と、旭川流域連絡協議会が共催して行ったもので、平成11年からスタートし、今年で8回目となりました。今年の調査地点数は114地点で、中国地方で最大となっています。

調査の実施にあたっては、旭川流域連絡協議会と岡山河川事務所が、水質試験用の試薬等の提供や回収を行って協力しました。なお、この調査は、昨年に引き続き、全国一斉水質調査に合わせて実施され、調査結果は、来年の2月頃に公表される予定です。

②市民の目による河川空間評価「川の通信簿」を実施しました



「川の通信簿」とは、市民の皆さんと一緒に、河川空間の親しみやすさを、水のきれいさ、川への近づきやすさ等の15項目のアンケートで採点する、川の成績表です。国土交通省が全国の一級河川で行っているもので、平成15年度に第1回が実施され、今回が2回目となります。

岡山河川事務所では、7月30日から8月4日までの間、吉井川、旭川、高梁川の合計16箇所、のべ287名の方々に参加していただき実施しました。成績は5段階評価で、四つ星評価（相当良い）が8箇所、三つ星評価（普通）が8箇所、前回調査とほぼ同様の結果となりました。

③水生生物による水質の簡易調査を実施しました



川底に住む生き物（水生生物）は、比較的長い期間の水質の状況を反映しています。「水生生物による水質の簡易調査」は、水遊び感覚で川底の生き物を採取して、その種類や数を調べることで川の水質を簡単に知ることができるものです。毎年、多くの小中学生に参加いただき、岡山河川事務所の職員と協働で調査を実施しています。今年度は旭川の新大原橋付近で、岡山市立芳田小学校・平福小学校の児童のみなさんと調査を実施しました。夏休み中の実施で厳しい暑さとなりましたが、児童の皆さんは水遊び感覚の調査を通してきれいな水の大切さをしっかりと学習されていました。

トピックス 河川愛護月間作文・ポスター



国土交通省では、毎年7月を「河川愛護月間」として、「川が好き川にうつつた空も好き」を推進標語に、河川愛護に関して皆様の理解と協力をいただくため、様々な活動を実施しています。

岡山河川事務所では、毎年、小中学生の方を対象として、作文・ポスターを募集しています。今年度は、県内の小中学校61校から作文151作品、ポスター1,137作品という大変多数の応募がありました。そのうち河川愛護に関する思いがよく表現されていた作文9作品、ポスター15作品の計24作品を選考し、平成18年7月25日（火）に、倉敷チボリ公園内アンデルセンホールにおいて表彰式を行いました。

優秀賞、優良賞を受賞された皆様を紹介します。

作文の部

- | | |
|---------------------|----------|
| ○優秀賞（岡山河川事務所長賞） | |
| 倉敷市立中島小学校 | 3年 田淵 綾菜 |
| 倉敷市立大高小学校 | 5年 中島 理沙 |
| ○優良賞（中国建設弘済会岡山支部長賞） | |
| 倉敷市立第五福田小学校 | 3年 村岡 俊季 |
| 倉敷市立大高小学校 | 6年 尾崎 友紀 |

ポスターの部

- | | |
|---------------------|---------------|
| ○優秀賞（岡山河川事務所長賞） | |
| 倉敷市立第五福田小学校 | 2年 浅野 舞 |
| 倉敷市立乙島東小学校 | 4年 平井 なつみ |
| 岡山市立芳田中学校 | 3年 岩藤 杏奈 |
| ○優良賞（中国建設弘済会岡山支部長賞） | |
| 倉敷市立乙島東小学校 | 3年 坂本 仁美 |
| 倉敷市立玉島小学校 | 6年 逸見 沙織 |
| 三原色の会 | 中学校 3年 藤原 久美子 |

今回の「おかやま河川だより」は、環境をテーマとして、川の自然を育むことの取り組みを紹介しています。岡山の川には貴重な動植物が生息していますが、自然環境の悪化により、絶滅することが危惧されています。ぜひ、みなさんもこの機会に自然の大切さを考えて行動してみたいでしょうか。

国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所
みんなのVOICE係

〒700-0914 岡山県岡山市鹿田町2丁目4番36号
Tel.086-223-5101（代表） Fax.086-222-7835
ホームページ <http://www.okakawa-milit.go.jp/>

R100
2018年100周年記念事業